

長野県革新懇ニュース

2022年12月・23年1月合併号
発行日 1月10日
会費 2,000円
購読料 3,000円(送料込)
振替 00510-3-15971

282

発行 日本と信州の明日をひらく 県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: mail@nagano-kakushinkon.com

==== 今号の主な記事 ====

- 1面 渡邊彰悟さんインタビュー
- 2面 1面続き、「近現代信州の歴史回廊」 桂木恵さん
- 3面 吉田午郎さんの過労死認定、カネのない宇宙人の苦闘
読者の声、漢字パズル
- 4面 雨よ降れ「いいね」は少なくいい 窪島誠一郎さん
ピアニストの兵隊さん 北原高子さん
映画評論『土を喰らう一二月』 内山到さん

長野県革新懇

検索



1990年4月、弁護士登録(42期)し、第一東京弁護士会に所属。はやぶさ法律事務所に入所し、2000年10月にいずみ橋法律事務所開設。在日ビルマ人難民申請弁護団として、国民民主同盟系民主化団体のメンバーやロヒンギャ系難民[3]などのミャンマー人難民申請に関わった。早稲田大学大学院法務研究科客員教授。共著に『難民と人権・新世紀の視座』、『外国人法とローヤリング』など。上田市在住。

難民への対応は その国の人権状況の鏡

渡邊 彰悟 さん

(全国難民弁護団連絡会議代表)

ミャンマーへの 人権調査がきっかけ

Q 難民問題に取り組まれている経緯をお聞かせください。

1990年に弁護士登録をしましたが、当初から社会問題に取り組みたいと考えており、まず薬害エイズ訴訟に参加しました。91年に日本でアジア太平洋法律家会議(CO LAP)がありました。ところが、日本の外務省はミャンマーの弁護士にビザを発給しないということがありまして。その対応の背景にはミャンマーで88年から高揚した民主化運動を軍事政権が潰すという経緯の下で、軍事政権に配慮した日本政府の政治的意図があったわけですね。

ないかという誘いを受け、日本の弁護士4人とフィリピンの弁護士が参加して、いわゆる「国際調査団」のような形で現地に行きました。バンコクで民主化運動の活動家に会ったり、国境の町へ行ったり、川を越えてミャンマー側の少数民族や抵抗組織、あるいは避難民キャンプなどの様々な人たちと会って人権状況についての調査をしてきました。その企画をしたのは在日のミャンマーの民主活動家だったのですが、その活動家から「実は日本で難民申請をしているんだが、なかなか難民認定を受けられない」という話を持ちかけられました。ミャンマーの過酷な人権状況の中で日本政府が難民認定をしないとはどういうことなのかという話を弁護士仲間と始めて、それでミャンマー人の難民申請者を支援する組織として「在日ビルマ人難民申請弁護団」(当時、ビルマと呼称)を立ち上げて、それで92年の夏頃から活動し始めて、それ以降ずっと難民申請者とお付き合ひすることになりました。最終的には弁護団で扱った件数は600人を超えています。

国籍国の外にいて 保護を求める人々

Q 難民とはどのような人々をいうのでしょうか？

難民というと、アフリカの飢餓の状態にある避難民をイメージしやすいのですが、私たちが対象にしている「難民」というのは、難民条約上の「難民」です。難民条約上の「難

難民に対して 冷淡な日本政府

Q 日本政府の難民政策の問題点をどのようにお考えですか？

日本は難民に対してとても冷淡な国です。重大な人権侵害を受ける恐れを訴えている人々であるにもかかわらず、手を差し伸べようとしないのが実態です。その理由ですが、一つは、日本は出入国在留管理庁(入管)が難民認定手続きを担当しているからです。良くない外国人を受け入れたくない、日本にいたらそれを追い出したいというのが入管の主要な仕事です。他方で、受け入れるということについてはメインの仕事とは逆の作

用のため、それを乗り越えられないというのが今の実態だと思います。もう一つは、これが本質的な理由だと思えますが、政治的な背景です。一番分かりやすいのはトルコのクルド人問題です。トルコは日本にとって友好国で、ビザ無しで日本に入国できます。トルコから来た人たちに対して、彼らが難民だと判断することはトルコにおける人権侵害の実態を指摘することになるので、日本政府としてはやりたくないわけですね。しかし、そういう姿勢は難民条約のあり方とは本質的に相容れないもので、因を入れてはいけません。先ほど述べたように、重大な人権侵害か、その恐れを抱えているということだけを判断の基準にすべきなのです。

難民問題への視座は ダイバーシティー

Q 難民政策はどうあるべきでしょうか？

外国人の人権問題、あるいは難民の保護の問題というのは、その国の人権状況を映し出す鏡だと思うので、そこをいつも結びつけながら、足元の人権問題としてきちんと見つけていくことが重要だと思っています。要するに、外国人も日本人も同じ人間同士で、その人権をお互いにどう尊重しあっているのかということですね。キーワードはダイバーシティー(多様性)だと思います。ダイバーシティーとは一人ひとりの個人の尊厳をはかっていくということも

【2面に続く】